

はじめに

「JSSI 免震構造施工標準」は健全なる免震建築物の普及を目指す日本免震構造協会の活動の一端を担い、免震建築物の施工品質の確保を目的として2001年に初版が発刊されました。以来、設計技術、施工技術の進歩や震災の教訓を受け止めながら、免震建築物の高品質化を実現するために定期的に改訂を行っています。

日本の免震建築物は1980年代に建設されはじめ、1995年兵庫県南部地震を契機にその有用性が広く世間に知られ、建設棟数は急増しました。2004年新潟県中越地震では「BCP（事業継続計画）」という概念のもと、建物にはより高い性能が求められるようになり、免震構造への関心が再度高まりました。そして2011年東北地方太平洋沖地震では免震エキスパンションジョイントに関わる不具合が新たに報告される一方で、免震建築物の構造安全性がそれまで以上に実証されることとなりました。さらに2016年に熊本県を中心に直下型ともいえる強い地震が発生し、一般建物に多くの被害が報告されましたが、免震建築物は構造的な被害を受けることはありませんでした。このように免震建築物は様々な地震を経験するたびに高機能化・高性能化が図られ、広く普及するに至りました。

前回の改訂（2021年版）により、高度化する構工法技術に対応し、品質確保の基本となる施工計画の立案に関する章を設け、施工計画書の作成に活用できる詳細な施工計画チェックシートを掲載し、さらに免震層およびその上階の施工精度を向上させることを目的とした免震部材の仮設拘束、近年適用事例が増加している中間階免震に関する記述を増強してまいりました。そして本書2025年版では免震部材取り付けボルト孔径の設定や免震部材直上に鉄骨部材が配置される場合の留意点、さらにはコンクリートの収縮対策などの施工方法や免震部材に関する記述を追加するだけでなく、免震建築物の維持管理、免震部材の交換計画などに関する解説を追加しました。

今日、免震工事の重要性は広く認識され、施工技術も向上しましたが、未だ完璧な工法が確立したわけではなく、改善・改良すべき部分は多く残されています。本書は「JSSI 免震構造施工標準」ですが、その「標準」に縛られ、新たな発想、新たな一歩が踏み出しづらくなる状況は我々の企図するところではありません。より安心安全な免震建築物が、より広く利用されることを目指すためには、みなさんの創意工夫を構工法の改善・改良に展開していくことが最も重要です。みなさんに本書をご活用いただき、免震建築物の構工法がさらに発展していくことを希望いたします。

2025年1月

一般社団法人 日本免震構造協会
技術委員会／施工部会